

魚河岸（かし）の女石松（1961）

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 Color

時間 89分

初公開日 1961/05/31

【解説】

「丹下左膳 濡れ燕一刀流」の直居欽哉と「忍術使いと三人娘」の横山保朗による脚本をもとに「八荒流騎隊」の工藤栄一がメガホンをとった。「べらんめえ芸者罷り通る」に引き続き、西川庄衛が撮影、米山正夫が音楽を担当している。築地の魚河岸を舞台に、主演の美空ひばりが男勝りのキャラクターを演じた。

加納佳子はその心意気と気っぷの良さで魚河岸の人気者だ。フリージャーナリストの喜多川達也は魚河岸を訪れ、そこで珊瑚のペンダントをさげた佳子と出会い驚いた。芸者に子供を産ませた立花製缶の社長が、芸者と一緒になれず贈ったのが珊瑚のペンダントだったという話を、達也は本人から聞かされていたのだ。彼は佳子を立花に会わせるが、彼女は自分の親は仲買人の藤太郎と滋子だと言い張る。立花製缶乗っ取りを企む専務の海老原が、缶詰のラインに腐った商品を混入したことから都内で中毒患者が続出、同社は営業処分を受け、立花社長が倒れてしまう。藤太郎は立花社長が本当の父であることを佳子に告白。彼女は達也とともに父の名誉挽回のため奔走するのだった。

【クレジット】

監督 工藤栄一

企画 神戸由美

吉田達

脚本 直居欽哉

横山保朗

撮影 西川庄衛

美術 進藤誠吾

音楽 米山正夫

出演 美空ひばり

高倉健

中原ひとみ

大村文武